

長崎外国語大学（以下「本学」という。）は、「建学の精神」及び「教育の目的」を実現するために、教学上の「3つの方針」である「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」及び「入学者受入れの方針（AP）」の達成状況、並びに学修成果・教育成果を把握・可視化する。また、それを教育の質保証に向けた改善に活かすために次の方針に基づき、教学上の成果について測定・評価（以下「アセスメント」という。）を行う。

1. アセスメントは、「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」及び「入学者受入れの方針（AP）」の3つの方針について行う。
  - (1) 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」に関して、以下のアセスメントを行う。
    - ア. 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果が、卒業時に学生によってどの程度達成されているのか。
    - イ. 社会の大学に対する期待やニーズを踏まえ、「卒業認定・学位授与の方針（DP）」自体が建学の精神、大学の教育目的及び人材育成目標に照らして妥当かどうか。
  - (2) 「教育課程編成・実施の方針」に関して、以下のアセスメントを行う。
    - ア. 教育や学修が「教育課程編成・実施の方針（CP）」に則って適切に進められているか。
    - イ. 学年進行に従って「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果・教育成果が達成されているか。
    - ウ. 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果を達成するために、教育課程編成・実施方法等は適切かつ有効か。
  - (3) 「入学者受入れの方針（AP）」に関して、以下のアセスメントを行う。
    - ア. 建学の精神・学部学科の教育目的並びに「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」を踏まえ、「入学者受入れの方針（AP）」で受け入れる学生に求めている学修成果（「学力の3要素」を含む。）が新入生においてどの程度達成されているかについてのアセスメントを中心に行う。
    - イ. 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」に照らして「入学者受入れの方針（AP）」が妥当であるかどうかを「入学者受入れの方針（AP）」の達成度から検証する。
2. アセスメントは、大学全体（機関）のレベル、学部学科（学位プログラム）のレベル、授業科目及授業のレベルの3つのレベルで行う。
3. アセスメントは、質保証に向けたPDCAサイクルによる改革・改善プロセスのC（Check）として実施する。また、学修成果の点検・評価の結果は、教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックする。
4. アセスメントは、内部質保証推進協議会の基本方針並びに自己点検・評価委員会の実施方針により、自己点検・評価小委員会が点検・評価活動の一環として行う。自己点検・点検・評価活動の体制、手続き等は、「長崎外国語大学 内部質保証に関する規程」の定めるところによる。
5. 学修成果・教育成果の把握と評価を実施するに先立って、以下の6項目について点検・評価を行い、必要な改善を行う。
  - (1) 学位プログラムの「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）において、卒業生が「何ができるようになるのか」が、専門分野に係る能力も含め、適切な観点から「～できる」という記述により定められていること。
  - (2) カリキュラムマップ・ツリーの作成やナンバリングの実施等により、「卒業認定・学位授与の方針（DP）」に設定された各観点を満たす上で必要な授業科目が過不足なく体系的に編成されていること。
  - (3) 学生の主体的な学修の前提として、個々の授業科目のシラバスにおいて、到達目標及び「卒業認定・学位授与の方針（DP）」との対応関係、成績評価基準並びに事前・事後学修の内容が学生に対し適切に示されていること。
  - (4) 成績評価の方針が大学全体で統一され、学位プログラムにおいては各授業科目の授業内容や到達目標に応じた適切な成績評価手法が選択され、これに基づき個々の授業科目において厳格な成績評価が実施されていること。
  - (5) 教育の成果に対し、学位プログラム共通の考え方や尺度に則った点検・評価が、点検・評価の目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについてあらかじめ定められた方針に基づき行われること。
  - (6) 学生が「卒業認定・学位授与の方針（DP）」そのもの、及びシラバスに示された各科目の到達目標と「卒業認定・学位授与の方針（DP）」との対応関係や、単位制度の趣旨を理解していること。
6. この方針の改廃は、教授会の意見を聴き、大学協議会の議を経て学長が行う。

附 則 改定後のこの方針は、2022（令和4）年8月1日より施行する。

■具体的なアセスメントの方法（第2版）

【フェーズ1 入学時・入学後】「入学者受入れの方針（AP）」で受け入れる学生に求めている学修成果（「学力の3要素」を含む。）が新入生においてどの程度達成されているかについての検証

◀1-A. 機関レベル（大学全体）▶

1-A-1. 受け入れる学生に求めている学修成果の検証

No.	分析手法	利用するデータ	データ作成担当者 （アセスメント実施者）	データ作成期限	分析実施者	分析完了期限	備考
1-A-1-1	入学試験結果に基づく、受け入れる学生のAP到達度の測定	・当年度入学者選抜結果 （前年度9月～3月実施）	入試広報部	当年度5月末まで	入学委員会	当年度6月末まで	次年度入試に改善反映

1-A-2. 入学時において学生に求めている学修成果及び入学後の学修状況の検証に基づく入学者選抜方法の妥当性の検証

No.	分析手法	利用するデータ	データ作成担当者 （アセスメント実施者）	データ作成期限	分析実施者	分析完了期限	備考
1-A-2-1	SS奨学金受給状況と英語プレイスメントテスト結果とのクロス分析	・当年度特別奨学金認定試験結果 （前年度2月実施）	入試広報部	当年度5月末まで	教学IR委員会	当年度6月末まで	次年度入試に改善反映
		・英語プレイスメントテスト結果 （当年度4月実施）	現代英語学科	当年度5月末まで			
1-A-2-2	前年度卒業生における入学者選抜の試験区分（総合型・学校推薦型・一般型・その他）及び得点率と、中退率（退学+除籍）・最低在学年卒業率・累積GPAとのクロス分析	・前年度卒業生年次学生の入学試験結果	入試広報部	当年度5月末まで	教学IR委員会	当年度6月末まで	次年度入試に改善反映
		・前年度卒業生年次学生の中退者・卒業保留者一覧及び累積GPA	教育支援部	当年度5月末まで			

1-A-3. 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」に照らして「入学者受入れの方針（AP）」の妥当性の検証

No.	分析手法	利用するデータ	データ作成担当者 （アセスメント実施者）	データ作成期限	分析実施者	分析完了期限	備考
1-A-3-1	前年度卒業生における入学者選抜の試験区分（総合型・学校推薦型・一般型・その他）及び得点率と、卒業時DP（学修成果1～6）達成度とのクロス分析	・前年度卒業生年次学生の入学試験結果 （1-A-2-2と同一） ・前年度卒業生のDP（学修成果1～6）達成度一覧	入試広報部 教育支援部 IR課（Assessmentmentor）	当年度5月末まで 当年度5月末まで	教学IR委員会	当年度6月末まで	次年度入試に改善反映

【フェーズ2 在学中】「教育課程編成・実施の方針（CP）」に則って学修が進められているかどうかの検証

＜2-A. 機関レベル（大学全体）＞

2-A-1. 全学的、俯瞰的視点から「教育課程編成・実施の方針（CP）」に則って学修が進められているかどうかの検証

No.	分析手法	利用するデータ	データ作成担当者 (アセスメント実施者)	データ作成期限	分析実施者	分析完了期限	備考
2-A-1-1	前年度GPA面談者数・割合、中退者数（退学+除籍）・中退率、休学者数・休学率の経年分析	・前年度GPA面談者一覧 ・前年度中退者一覧 ・前年度休学者一覧	教育支援部	当年度5月未まで	教育支援委員会	当年度7月未まで	
2-A-1-2	上記2-A-1-1におけるGPA面談者、中退者に係る属性分析	・（上記2-A-1-1に同じ）	教育支援部	当年度5月未まで	教学IR委員会	当年度7月未まで	
2-A-1-3	前年度授業評価アンケートにおける科目区別（教養・専門・言語等）授業満足度・授業外学修時間の経年分析	・前年度授業評価アンケート結果（前年度7～8月、1～2月実施）	教育支援部	当年度7月未まで	教育支援委員会	当年度9月未まで	
2-A-1-4	①前年度学生意識調査における授業外学修時間（自主的学習時間）と累積GPA（・中退率等）とのクロス分析 ②前年度学生意識調査におけるDP各項目（学修成果1～6）の志向性とDP（学修成果1～6）達成度との比較分析	・前年度学生意識調査結果（前年度7月実施）	学生支援部	当年度7月未まで	教学IR委員会	当年度9月未まで	
		・前年度学生の累積GPA一覧	教育支援部	当年度7月未まで			
		・（前年度中退者一覧(2-A-1-1に同じ)）	教育支援部	当年度5月未まで			
		・前年度学生のDP（学修成果1～6）達成度一覧	教育支援部 IR課 (Assessor)	当年度7月未まで			

＜2-B. 学位プログラムレベル（各学科）＞

2-B-1. 教育や学修が「教育課程編成・実施の方針（CP）」に則って適切に進められているかの検証

No.	分析手法	利用するデータ	データ作成担当者 (アセスメント実施者)	データ作成期限	分析実施者	分析完了期限	備考
2-B-1-1	前年度の学年次別・学科別累積GPA分布状況の分析	・前年度の学年次別・学科別累積GPA分布状況	教育支援部	当年度7月未まで	教育支援委員会	当年度9月未まで	
2-B-1-2	前年度の学年次別・学科別GPT分布状況の分析	・前年度の学年次別・学科別GPT分布状況	教育支援部 IR課 (Assessor)	当年度7月未まで	教学IR委員会	当年度9月未まで	

2-B-2. 学年進行に従って「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果・教育成果が達成されているかの検証

No.	分析手法	利用するデータ	データ作成担当者 (アセスメント実施者)	データ作成期限	分析実施者	分析完了期限	備考
2-B-2-1	前年度の学年次別・学科別DP（学修成果1～6）達成度の比較分析・経年分析	・前年度学生のDP（学修成果1～6）達成度一覧（2-A-1-4に同じ）	教育支援部 IR課 (Assessor)	当年度7月未まで	教学IR委員会	当年度9月未まで	
2-B-2-2	前年度の学年次別・学科別DP汎用的能力（学修成果2の5つの力）達成度の比較分析・経年分析	・前年度学生のDP汎用的能力達成度一覧	教育支援部 IR課 (Assessor)	当年度7月未まで	教学IR委員会	当年度9月未まで	
2-B-2-3	前年度の学年次別・学科別TOEIC受検者数・受検率・平均スコアの比較分析・経年分析	・前年度学生のTOEIC受検者及びスコア一覧	社会連携センター	当年度7月未まで	教学IR委員会	当年度9月未まで	
2-B-2-4	前年度のPROGテスト結果の学年次別（1・3年次）・学科別の比較分析・伸長度分析	・前年度PROGテスト結果（1年次4月・3年次10月実施）	教育支援部	当年度7月未まで	教学IR委員会	当年度9月未まで	

＜2-C. 授業科目レベル＞

2-C-1. シラバスで提示された授業設計・教授法の妥当性・有効性の検証

No.	分析手法	利用するデータ	データ作成担当者 (アセスメント実施者)	データ作成期限	分析実施者	分析完了期限	備考
2-C-1-1	次年度シラバス記載内容の確認	・次年度各科目シラバス	各科目担当教員	当年度2月末	シラバス改善委員会	当年度3月未まで (次年度9月末)	
2-C-1-2	当年度授業評価アンケート結果を受けた次年度シラバスの改善	①春学期授業評価アンケート結果 ②秋学期授業評価アンケート結果	教育支援部	①当年度9月末 ②当年度2月末	教員SD(FD)委員会	当年度3月未まで (次年度9月末)	
		・次年度各科目シラバス（2-C-1-2に同じ）	各科目担当教員	当年度2月末			

2-C-2. 授業科目の学修目標に対する評価の妥当性（客観的かつ厳格な成績評価）の検証

No.	分析手法	利用するデータ	データ作成担当者 (アセスメント実施者)	データ作成期限	分析実施者	分析完了期限	備考
2-C-2-1	①前年度開講科目の科目平均GPの精査（平均GP上位・下位5%について成績評価ガイドラインに基づき妥当性を検証） ②前年度科目別受講人数と当該科目平均GPとのクロス分析	・前年度開講科目別平均GP一覧 ・前年度開講科目・履修者数一覧	教育支援部	当年度7月未まで	教育支援委員会	当年度9月未まで	

【フェーズ3 卒業時（卒業後）】「卒業認定・学位授与の方針（DP）」を満たす人材になったかどうかの検証

＜3-A. 機関レベル（大学全体）＞

3-A-1. 社会の大学に対する期待やニーズを踏まえ、「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の妥当性を学生の志望進路（就職率、専門領域へ就業率及び進学率）等から検証

No.	分析手法	利用するデータ	データ作成担当者 (アセスメント実施者)	データ作成期限	分析実施者	分析完了期限	備考
3-A-1-1	最低在学年限卒業率、就職率、専門領域就職率、進学率、英語教員・日本語教員採用者数に係る経年分析	・前年度卒業生・就職者・専門領域就職者・進学者一覧	キャリアセンター	当年度5月未まで	教学IR委員会	当年度7月未まで	
		・前年度卒業生の英語・日本語教員採用者一覧	教職センター	当年度5月未まで			
3-A-2-2	①過去3か年度卒業生アンケート結果の分析 ②過去3か年度卒業生就職先事業所アンケート結果の分析	・過去3か年度卒業生アンケート ・過去3か年度卒業生就職先事業所アンケート (ともに当年度9～11月実施)	キャリアセンター	当年度12月未まで	大学協議会	当年度3月未まで	

＜3-B. 学位プログラムレベル（各学科）＞

3-B-1. 卒業時において「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果・教育成果が達成されているかの検証

No.	分析手法	利用するデータ	データ作成担当者 (アセスメント実施者)	データ作成期限	分析実施者	分析完了期限	備考
3-B-1-1	前年度卒業生アンケート調査結果のうち、「外国語能力」、「知識教養」、「学生サービス満足度」に係る設問回答の状況を学科別比較分析及び経年分析（学生サービス満足度については他の設問とのクロス分析）	・前年度卒業生対象卒業生アンケート（前年度9月・3月実施）	教育支援部	当年度10月未まで	教学IR委員会	当年度12月未まで	
3-B-1-2	前年度卒業生の学年次進行に応じたDP（学修成果1～6）達成度の推移を学科別比較分析及び経年分析	・前年度卒業生学科別学年次進行別DP（学修成果1～6）達成度推移	教育支援部 IR課 (Assessor)	当年度10月未まで	教学IR委員会	当年度12月未まで	
3-B-1-3	前年度卒業生の学年次進行に応じたDP汎用的能力（学修成果2の5つの力）達成度の推移を学科別比較分析及び経年分析	・前年度卒業生学科別学年次進行別DP汎用的能力の達成度推移	教育支援部 IR課 (Assessor)	当年度10月未まで	教学IR委員会	当年度12月未まで	

3-B-2. 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果を達成するために、教育課程編成・実施方法等は適切かつ有効かの検証

No.	分析手法	利用するデータ	データ作成担当者 (アセスメント実施者)	データ作成期限	分析実施者	分析完了期限	備考
3-B-2-1	前年度卒業生の学年次進行に応じたGPT平均の推移を 学科別比較分析及び経年分析	・前年度卒業生学科別学年次進行別 GPT平均推移	教育支援部 IR課 (Assessor)	当年度10月末まで	教学IR委員会	当年度12月末まで	
3-B-2-2	①前年度卒業生の学年次進行に応じたTOEICスコア推移の 経年分析 ②特に1年次から卒業時までの伸長率に係る経年分析	・前年度卒業生に係る過去4か年度分 TOEICスコア一覧	社会連携センター IR課 (Assessor)	当年度10月末まで	現代英語学科会議	当年度12月末まで	CEFR基準に準拠した Assessor入力 が可能となれば当該数値 とのクロス分析を検討
3-B-2-3	前年度卒業生の初修外国語（独・仏・中・韓）語学検定 結果の学年次進行に応じた取得級推移の経年分析	・前年度卒業生に係る過去4か年度分 初修外国語検定結果一覧	国際コミュニケーション学科 IR課	当年度10月末まで	国際コミュニケーション 学科会議	当年度12月末まで	上記に同じ

以 上